

## 授業時間を弾力的に・・・

2025年 11月28日 柏市立富勢小学校 校長 梅津 健志

今号では、時数特例校に向けた準備をどう取り組んでいるかを中心にお伝えしていきます。

現在学校では、教務主任をリーダーとして職員の中にプロジェクトチームを立ち上げ、次年度に向けて検討を行っております。その中で方向性として挙がっているものは、次の3点です。一つ目は総合的な学習と生活科の授業時数を多くし、富勢地域を教材とする本物の学びを充実させること。二つ目は、基礎的基本的なスキル（文章を書く・本を読む・数や計算の力）に取り組む時間を年間通して設けることと、清掃時間を縦割り活動で行い、それぞれの学年に応じたリーダー性を育成すること。三つ目は、授業時間の弾力的な取り扱いを行い、学習を活発に行う時期には、40分授業として午前中に5時間を行い、午後は総合の探求型の学びを60分授業として展開するような時間割編成を柔軟にすること。を検討しています。

そのためには、すでに取り組んでいる学校に学ぶことが最も近道であると考えました。そこで先生方は今年度1学期から、先行的に実施している目黒区立中目黒小学校に4回、渋谷区教育委員会、渋谷区立鳩森小学校、名古屋市立山吹小学校、福島県大熊町立学び舎ゆめの森学園、館山市立北条小学校に視察に多くの先生が行きました。昨年度訪問した、愛知県緒川町立緒川小学校、瀬戸 SOLAN 小学校も合わせると、8校の実践から学びながら、来年度の計画を煮詰めているところです。

これらの学校から学んでいることは、総合的な学習の時間を中心にカリキュラムを編成することによって、教科で学習した内容を実際の場面で活かせることができたり、外部の人との交流を通じて気づいた自分たちに欠けている力を教科の学習の中でしっかりと身に付けようとする姿勢につながったり、することが子どもの中に生まれてくるということです。

私たちは、「勉強しなさい」と言われ、「勉強して力がついたら大人になって使えるようになる」と言われて育ってきましたが、子供たちは目的をしっかりと持ち、自分でやろうという気持ちを持つことによって、自分から進んで力を身に付けていく力を元々持っているということなのです。0歳から1歳になる間、寝返りをしなさい、ハイハイをしなさい、さあ立ちなさい、歩きなさい、と言われてできるようになる子は一人もいません。すべて子ども自身が興味を持って体を動かし、なんとか体得していくものです。そういう力は学習でも発揮されることが認識され、学習指導要領も大きく変化してきているのです。